

ROIS 研究者交流会2025

Beyond Disciplines ～分野・組織を超えた対話～

分野や組織、職種の違いをこえて、気軽に話したり交流したりすることで、将来的に一緒に何か新しいことに取り組むきっかけが生まれるような場にしたいと思っています。参加される皆さんが、対話を通じて新しい発見や気づきを得られるような、そんな時間になれば嬉しいです。

2025年

10月9日 木 14:00-17:00 (開場:13:30～ 情報交換会:17:30～)

AP虎ノ門 3F I・Jルーム ※現地開催のみ

〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目6-15 NS虎ノ門ビル

アクセス：東京メトロ銀座線「虎ノ門駅」より徒歩3分

都営地下鉄三田線「内幸町駅」より徒歩3分、JR「新橋駅」より徒歩8分



対象 情報・システム研究機構および大学共同利用機関法人の他機構に所属する研究者、技術職員、事務職員、URA、総研大の学生 ※ROISに所属する者からの紹介を通じた研究者、学生の方も参加可

定員 80名

参加申込フォーム

<https://forms.gle/cpYwPLLvNdn2muXEA>

※申込締切 2025年9月30日



プログラム

14:00～14:05 開会挨拶 中野 美由紀 (情報・システム研究機構 理事/戦略企画本部長)

14:05～14:55 基調講演「生命科学と情報科学の出会い」 近藤 滋 (国立遺伝学研究所 所長)



生命科学は、しばしば「実例の集積＝博物学」と見なされ、分子生物学もまた「分子の博物学」に過ぎないという批判があります。物理化学のような予測性や演繹性に欠ける、と言われてきました。確にかつてはそうした側面もありましたが、過去40年の進歩によって、状況は大きく変わってきています。本講演では、その代表的な例を2つご紹介します。1つは、動物の形づくりの鍵となるアラン・チューリングの反応拡散仮説が、生物学的に実証されたという話です。これは、私自身が計算機シミュレーションと分子遺伝学の手法を組み合わせで行った研究であり、生物学と情報科学の出会いによって初めて可能になったものでした。もう1つは、現在遺伝研が進めようとしている、ゲノム言語モデルの構築とその展望についてです。ぜひご期待ください。

14:55～16:55 ポスターセッション

14:55～15:15 自由閲覧
15:15～15:40 説明コアタイム①
15:40～16:10 自由閲覧・休憩
16:10～16:35 説明コアタイム②
16:35～16:55 自由閲覧

16:55～17:00 閉会挨拶 斉藤 卓也 (情報・システム研究機構 副機構長/戦略企画本部 副本部長)

17:30～18:30 情報交換会 (会費：3000円程度を予定)

ご参加にあたってのお願い

参加者は、以下の3つの項目について、各項目ごとに120字程度でご準備ください。参加申込後、回答の提出方法をご案内申し上げます。(事務局で取りまとめて、参加者全員に事前に配布予定とし、当日ポスターと共に掲示します。)

- ①「私の研究(業務)はこんな感じです」(他分野の研究者(別の業務を担当している職員、URA等)にもわかるように説明)
- ②「こんなコラボができれば嬉しい」(目標や希望、困っていること等)
- ③「こんなことができます」(提供できる知やスキル、業務に対する専門性、得意なこと)

研究者は、研究内容を説明するためのポスターを1枚(最小A3サイズ～最大A0サイズ)をご用意ください。既存のもので構いません。

お問い合わせ先

情報・システム研究機構 戦略企画本部

E-mail: [jigyo\[at\]rois.ac.jp](mailto:jigyo[at]rois.ac.jp) TEL: 03-6402-6223



大学共同利用機関法人

情報・システム研究機構

Research Organization of Information and Systems